

# 旦工會報

第32号

令和7年3月5日

発行 日立工業高校同窓会

発行者 同窓会事務局

日立市城南町2-12-1

☎ 0294 (22) 1049

FAX 0294 (21) 4591

印刷所 SATOプリント

☎ 0294 (33) 0883

## 会長挨拶

同窓会会長 梶山 隆範



旦工会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

まず初めに、能登半島地震により被災された皆さまに、改めて心よりお見舞い申し上げます。発生から時間が経過した今もお、元の暮らしを取り戻せず、不安な日々を過ごされている方が平穏な日常を取り戻せることを心からお祈り申し上げます。

さて、昨年はパリ五輪が開催され、海外のオリンピックとし

ては、過去最多となる四十五個のメダルを獲得しました。多くの感動的な瞬間を目のあたりにし、改めてスポーツの祭典の素晴らしさを実感したところでもあります。日立市としまして、初めてのフルマラソン大会「ひたちシーサイドマラソン」が十一月に開催され、国内外から計四千三百九十六人が大海原を間近に望みながら、潮風を受けて工都を駆け抜けました。沿道では、多くの市民が太鼓の演奏や差し入れなどで選手を応援し、大きな事故もなく無事に終えることができました。そして、来年度より日立製作所の次期社長に創業地（日立市出身）から就任することが決まり、日立市全体の活性化に繋がる更なる発展に期待をしております。

本校におきましても、機械・工業化学科二クラス、電気科一クラス、情報電子科一クラスの計四クラスとして再編をし、来年度に一学年から三学年まで完成すると聞いております。学生の皆様の学びを一層充実させるために、今後の学びにおいては同窓会としても母校をできる限り支えてまいります。そして、変化の多い時代ではありますが、一層の努力を重ねてまいりますので、変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

今年度の進路状況においては就職希望者・進学希望者ともに順調に内定を頂いている状況であると聞いております。卒業生の諸君におかれましては四月から新生活が始まることと存じますが、高校生活での様々な経験を糧に、胸を張って新しい環境に飛び込んでいってほしいと思います。母校の先輩として心から応援しています。

結びに、旦工会会員の皆様のますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げ、同窓会会長挨拶といたします。

## 学校長挨拶

学校長 西野 守郎



同窓会（旦工会）の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校教育の充実・発展のために深いご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。とりわけ、卒業生の皆様が各界で活躍されていることは、生徒の将来の目指すべき理想として大きな励みになっているところ です。

今年度予定されていた学校行事および教育活動は、これまで滞りなく行うことができました。今年は特に夏の暑さが過去最高を記録し、熱中症対策を例年以上に施して実施したことが思い出されます。今後、生徒の安全を確保する体制を維持しつつ、充実した教育活動が送れるよう取り組んでまいります。

さて、今年度も各部活動の活躍はめざましく、陸上競技部は関東大会と国民スポーツ大会

に、山岳部は関東大会に出場することが出来ました。その他、多くの運動部と文化部が県大会や地区大会において入賞しています。定時制では、バドミントンで全国定時制通信制体育大会に出場するなど、全日制・定時制ともに多くの部活動が優秀な成績を残しています。これら関東大会・全国大会の出場に際し、毎回出場する個人及び団体に同窓会からお祝い金をいただいております。校内ばかりでなく同窓会からも応援していただけることは、出場する生徒にとつととても大きな励みになっており、心から感謝申し上げます。三年生の進路状況では、就職希望者は順調に企業からの内定を得ており、公務員でも合格者を出しております。進学希望者も希望する大学、専門学校への進学を決めております。今後も「誠実 剛健 自主 創造」の校訓のもと、地域・日本・世界に貢献できる人材の育成を目指し取り組みんでまいります。

令和四年度より現行の学習指導要領を踏まえた教育課程が始まり、令和六年度には全日制全学年が新課程となりました。「何を学ぶか」だけでなく「何ができるようになるか」が求められるようになっており、新課程の根底

には、地域に開かれた教育課程といった考え方が流れていきます。本校の、これまで進めてきた地域との連携をこれまで以上に進め、個別最適な学習活動や進路希望に対応した教育活動、進路相談などをおして、生徒が達成感や自己肯定感、学ぶ喜びを感じることをできるよう努めてまいります。

これからも生徒の可能性を最大限引き出し、地域に信頼される学校づくりを進めてまいります。終わりになりますが、県工会の皆様には、今後も本校の教育活動に一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。皆様のご健勝・ご活躍と県工会の益々の発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



## 事務局長挨拶

全日制 教頭 小林 隆



同窓生の皆様方には、日頃から母校の発展のため、物心両面に亘り多大なる御支援をいただいておりますこと、心からお礼申し上げます。

令和六年度の人事異動で日立工業高等学校に赴任しました小林です。よろしくお願いいたします。今まで農業・商業・福祉と専門教科を学ぶ高等学校に勤務したことがあります。今回、初めての工業高等学校勤務となり、各科の実習を中心として授業を参観しました。生徒達が高度な技術を身につけるために、基礎的な技術を身につけるべく、真剣なまなざしで実習に取り組んでいました。そして、この姿がとても印象的で、日本の産業の基礎となる人材を育成していると感じました。

急激に変化する現代社会において、自ら課題を見出し、解決策を導き出していく力、課題解

決能力が強く求められています。また、少子化の影響で、日立工業高等学校も生徒募集が大きな課題となっております。社会の変化、求められている教育、そして、学校の課題に対応しながら、確かな技術と課題解決能力をもち、地域社会に貢献できる人材の育成に取り組みたいと考えております。

最後になりますが、同窓会の益々の御隆盛と同窓会各位の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます。会報に寄せる挨拶とさせていただきます。



## 役員だより

同窓会相談役 小野崎久輝  
(昭和25年電気科卒)

我が家に馬小屋があった。馬は二頭居たらしい。二頭分が並べて建てられていた。

父に聞いたところでは、明治の時代の頃迄は早朝四時に家を出て、四時間かけて常陸太田まで商いに行っていたそうだ。近所で獲れた野菜や鮑や汐瓜貝等を売っていた。当時としての常陸太田は中核的都市の存在であった。帰り荷には日用品や薬や建築資材等を仕入れてきては売り捌いていたらしい。要はブローカー的な事をしていたらしい。帰りは常時昼頃であった。そこで先ずサツマイモをおつまみにして、先ず腹を膨らませてから、それから昼食をだしていた。その分だけご飯の量が少なく、それが毎日昼食だから、その上、数人分だったからその影響は大きく、それで財をなしたらしい。近所の人達からはそれで「サツマイモ大臣」とも評判を受けた。私の小さい頃迄それがまかり通っていた。

それにしても昔の人達はよく歩いていたものだ。歩くのが当

たり前だったから誰も苦とも思っていないかった。私も子供の頃、小学生の頃には下駄履きでよく川尻(豊浦)まで味噌や塩辛等を買いにいかされていた。私も又、小学生の頃に川尻迄行くのに何の抵抗もなく何の不満を感じていなかった。帰りは思い荷物を手を持って、代わがわる持ち手をかえて帰ってきたものです。川尻といえば田尻から小木津、折笠と家から七kmはあります。歩くといえ、戦前(昭和十年代)はどこへ行くのにも乗り物はあまりなく、皆歩いたものです。子供の頃の歩いた思い出は、玉垂れ観音まで歩いて帰って来た事です。大雄院から本山 高鈴の山を越えて帰って来た事です。大人の私にはだいたいぶちえました。玉垂れ迄は二十kmはあると思われすが、二十kmの上に、更に標高五百mの高鈴の峰を超えるわけですから、容易ではありませんでした。

今の年(九十二歳)になっても忘れられません。しかしよく考えてみれば、子供の頃、鍛えられた丈夫な足腰があったから今日があるのだとつくづくそう思っとなりません。



# 令和六年度総会報告

# 令和六年度同窓会役員構成



日時 令和六年六月十五日(土)

十時

場所 日立工業高等学校会議室

出席者 二十五名

1) 令和五年度同窓会事業・会務報告

2) 令和五年度同窓会決算報告  
3) 令和五年度同窓会会計監査報告

4) 令和五年度記念基金管理運営委員会事業・会務報告

5) 令和五年度記念基金決算報告  
6) 令和五年度記念基金会計監査報告

7) 令和五年度記念基金特別会計バス管理費決算報告

8) 令和五年度記念基金特別会計バス管理費会計監査報告

9) 令和五年度記念基金特別会計バス管理費【定期】決算報告

10) 令和五年度記念基金特別会計バス管理費【定期】会計監査報告

11) 令和六年度同窓会事業・会務計画(案)

12) 令和六年度同窓会予算(案)

13) 令和六年度記念基金管理運営委員会事業・会務計画(案)

14) 令和六年度記念基金予算(案)

15) 令和六年度記念基金特別会計バス管理費予算(案)

16) 令和六年度記念基金特別会計バス管理費【定期】予算(案)

17) その他  
支部情報  
No.4 茨城日立情報サービス  
廃止

No.20 日製国分支部(今年度まで解散)

No.23 日製日研支部 解散

No.49 リコグループ支部 解散

(No.11 昱工会報第31号P15支部名簿番号)

会長 梶山隆範  
副会長 根本正幸

会計監査 益子進

相談役 高橋克寿

相談役 樋熊勝敏

幹事 鈴木巳代治

幹事 田口滋美

幹事 小野崎久輝

幹事 内田雄啓

幹事 今橋吉嗣

幹事 永山堯康

幹事 小林賢治

幹事 黒羽光彦

幹事 宮本晴夫

幹事 大貫健二

幹事 八木健二

幹事 武藤康志

幹事 長久保亮

幹事 西野守郎

幹事 小林隆

幹事 高村彰

幹事 村上富敏

幹事 佐藤充

幹事 小田部拓実

幹事 鈴尾崇

幹事 三瓶恭央

会計(同窓会) 菊池博之

青山達史

広報

猪狩大樹

青山達史

